

発行

株式会社 エスクリエイト

名古屋市中区錦一丁目4番16号 日銀前KDビル4階

TEL: 052-222-3600 FAX: 052-222-3699

URL: <http://screate-soft.co.jp/>

担当: コンサルタント 石垣 智博

tomohiro.ishigaki@screate-soft.co.jp

ヒヤリ・ハットは仕事もプライベートも

先月号では、後に命名された「黒田バズーカ」の驚きを記しました。その後、なんと消費増税(10%)が延期となり衆議院が解散総選挙となったことはご存知の通りです。(12月14日投開票)

新聞やニュースなどでは、解散の是非・選挙争点が話題となっています。各政党からも公約ができました。個人的には、中期的なビジョンと実行計画をもっと具体的に明示してほしいと思っています。経済ばかりではなく様々な課題(原発・外交・財政・労働・・・)が沢山あるなかでどのような舵取りをしていくのが気になるところです。老後の不安さえ取り除けば景気は上向くような気がするのですが・・・。

さて、今日は転ばぬ先の杖、ヒヤリ・ハットについて取り上げたいと思います。

というのも、最近「危なっ」「ゾッとする」「うっかりしてた」ということが私の身に起こっています。大事に至らないように対策を考える必要があると感じたからです。私の身に起こったことは、

「車のテールゲートガラスをガレージに当て、割った」(①)

「台所の床が濡れており滑った。踏ん張って腰痛に」(②)

「自転車のテールライトが下り坂走行中に外れ、カラコンと転がっていった」(③)

「子どもが、車が完全停車する前に降りた」(④)

「柿収穫中の出来事ですが、小さな枝つきの柿を捨てようとしてその枝を持ってポイと軽く投げ捨てたら、その枝が折れて近くにいた妻に当たるか当たらないかすれすれで地面に落ちた。その途端柿はグジャッとつぶれた。柿は完熟で軽い衝撃でもつぶれる状態であることがわかった。もし妻に当たっていたらと思うと…大参事(ホントにゾッとした)」(⑤)等々です。

◆ハインリッヒの法則とヒヤリ・ハット

ヒヤリ・ハットを語る上で欠かせない法則が「ハインリッヒの法則」です。

＜ハインリッヒの法則＞

「労働災害における経験則の一つである。1つの重大事故の背後には29の軽微な事故があり、その背景には300の異常が存在するといふもの。『ハインリッヒの災害トライアングル定理』または『傷害四角錐』とも呼ばれる。」(ウィキペディア「ハインリッヒの法則」より)



300の異常をヒヤリ・ハットと言っているわけですね。そのヒヤリ・ハットを活用すれば、重大な事故や軽微な事故を抑制することができるということです。

◆私の事故を検証

私の身に起きたことを数個サンプリングして検証します。

事例①: この事例はもうヒヤリ・ハットではなく「重大な事故」です。屋根だけのガレージがあるのですが、屋根が低く時々頭がぶつかりかけたりしていたことを思い出しました(今)。これがヒヤリ・ハットですね。(今からでも遅くないので対策を練らねば、また同じ事故を起こしそうです。)

事例②: この事例は「29件の軽微な事故・災害」に当たるかもしれません。「重大な事故」を想定すると、転倒した際に頭を打って脳内出血や脳挫傷になる可能性があります。

ヒヤリ・ハットとしては、時々台所で靴下が濡れて不快だったことくらいしか思い出せません。ただ、このような些細なことが大事故につながる可能性がありますね。

事例④：事故にはなっていないのですがとても危険な行為です。子どもには注意しました。あと、わたしもうっかりドアロックをしていなかったの、1人で乗車する際にも必ずドアロックをするように習慣づけしています。今考えるとヒヤリ・ハットを有効活用した事例だと思います。

あと事例⑤は横着しないということですね(笑)。このようにプライベートで起こったことでも、ヒヤリ・ハットを検証及び活用するべきだと気付くことができました。

◆もちろん仕事でもヒヤリ・ハット

製造業や建設業そして医療系など安全意識の高い(安全意識を高くする必要がある)業種では、ずいぶん前からヒヤリ・ハット関連の取組みをしている組織が多いと思います。ここでは現場の掲示板や事務所の廊下にヒヤリ・ハット内容や集計されたものが張り出されています。当然大事故につながりそうなことは共有に留まらず対策されていることでしょう。

ただ、そのような業界以外では、ヒヤリ・ハットを共有することはあまりなされていない感じがします。(途中でやめてしまった(続かなかった)会社も少なからず知っています。)

時々起こるヒューマンエラーを分析するとヒヤリ・ハットにいきつくこともあります(プライベート事例もそうですね)。また、ヒヤリ・ハットを放置すればその出来事は忘れられます。しかし、それは事故の予兆を見過ごしていることと同じです。事故は不幸です。不幸が起らないような事前対策はだれもが大事だと考えるところだと思います。

手始めにヒヤリ・ハットを収集(募集)してみたいかでしょうか。些細なことでもOKですよ。

「本は考える為のサプリメント」(その44)

今月紹介する書籍は、英語学習に関する新書です。昨今、グローバル化により世界が身近になり英語に触れる機会が多くなってきています。私もシステムの設計書やテスト仕様書など英語で記されたものをレビューした経験や日本語が話せず英語を話す技術者に仕様を説明した経験が少なからずあります。苦勞しました。英語をちゃんと勉強しておけばと……。学生の頃(特に高校・大学)、なぜか英語が嫌いでした。(英語の勉強が楽しくなかったのかなあ。科目としてしか見ていなかったのかも知れません。)

先ごろ「小学校英語の開始時期について文部科学省が現在の小5から小3に前倒しする方針を固めた」というニュースがありました。東京オリンピックを視野に入れているのでしょうか……。効果のほどはやってみないとわかりません(算数や理科と同じような感じになるような気がしなくもないですが……。良くも悪くも)。これを実施するための課題も沢山あります。ただ、私の様に英語嫌いを増やす結果とならないように最大限の努力をして欲しいです。好きなことは勝手に勉強するものです。



「英会話不要論」(行方 昭夫 著)

さて、本書はこの様な国における英語の学習方針についてのこと、英語を身につけるために立ちはだかる壁について記されています。

特に「小学校英語の開始時期について文部科学省が現在の小5から小3に前倒しする方針を固めた」について「改善ではなく改悪だ」と指摘しています。本書は、英会話の前に文法・訳読の重要性を説いています。

英語教育の方針は1998年に大きく変わっているようです。小学校で英会話が新設され、中学校ではよりコミュニケーションを重視する方向へと移行されました。その後2009年には高校でリーディングがなくなり、コミュニケーションに変わりました。(私が高校生のはころはグラマーとリーダーという英語科目があったのですが様変わりしたのですね。)この様に、「読み・書く」から「話す・聞く」に重点が移ったとのこと。そして、その移行の弊害について理論的にそして事例も交え語られています。

本書に記載されていることは母語ではない言語を学ぶ際にはぜひとも知っておくべき内容だと思います。また、お子さんがいる親にとってもお子さんの英語教育を考える、良いネタとなるでしょう。

編集後記

もう師走。あっという間に1年が経ちますね。今年もあと少し頑張るぞ〜!

そして12月になって、急に寒くなりました。ご自愛ください。ちょっと早いですが良いお年をお迎えください。(石)

